

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

社会福祉協議会

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標1、基本施策(1) ボランティア・市民活動センターの強化
活動指標	ボランティア災害共済加入者数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) 広報誌での情報発信やボランティア活動パンフレットを活用し、センターの周知を図った。ボランティアセンター運営委員会は未設置でその役割をボランティア連絡会に持たせている。
目標達成	(H30年度末取組み) 災害共済の加入手続きや活動費の助成などボランティアグループの運営を支援。センター機能の強化を図るため、各支部のボランティア関係事業について、ボランティア連絡会と連携を図り展開。 (活動指標) 策定時:1,826人 目標:増加 H30末:1,900人
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
ボランティアの高齢化やリーダーのなり手不足等により、メンバーの少ないグループや解散するグループが出てきているなかで、ボランティアの養成や発掘が出来ていない。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の 今後の方向性	新たなニーズにも応えていくため、新しい層(若者、働いている人など)の取り込みも含めたボランティア活動の提案。新しい層が参加できるボランティア活動の機会づくり。
拡充して継続	

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標1、基本施策(1) 退職世代の参加促進
活動指標	ボランティア入門・養成講座参加者数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) 第6期セカンドライフ応援セミナーを開催し、元気な地域づくりをテーマにご近所サポーターを養成。
策定時と同じ又は 減少	(H30年度末取組み) 生活コーディネーターが退職世代を対象にちょっとした困りごとや、集いの場・居場所づくりをお手伝いする「ご近所サポーター」を養成。ご近所サポーターの活動に向けた準備を行った。 (活動指標) 策定時:206人 目標:増加 H30末:169人
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
養成したご近所サポーターのフォローとスキルアップを図るための実践の場が設けられていない。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の 今後の方向性	ご近所サポーターの「〇〇人材バンク(仮称)」の登録者を増やすとともに、情報提供や活動の場づくり、スキルアップ研修を実施する。
拡充して継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

社会福祉協議会

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標1、基本施策(2) 福祉学習の実施
活動指標	福祉学習の実施回数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の評価区分	(中間取組み) 講師やボランティアのコーディネート、学習プログラムの作成等、学校や教職員と連携し学校等での福祉学習を実施。トライやるウィークでの中学生の受け入れを行った。 (H30年度末取組み)
策定時と同じ又は減少	小学3年生以上を対象に夏休みボランティアスクールを実施。自治会へ出向き学習会を開催(出前講座)。学校や教職員と連携し福祉学習を実施。 (活動指標) 策定時:27回 目標:増加 H30末:24回
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
学習プログラムが作成できていない。市民だれもが福祉を学ぶ機会がまだまだ作れていない。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の今後の方向性	各学年や小中高連続した学習プログラムをはじめ、地域で体験できるプログラム、遊びを通じて学べるプログラムを提案し、様々な機会に福祉を学ぶ環境をつくる。
拡充して継続	

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標2、基本施策(1) ふれあいサロン・喫茶の支援
活動指標	ふれあいサロン・喫茶の開催数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の評価区分	(中間取組み) 運営費の助成を行うほか、職員がレクリエーションの指導や血圧測定などを行った。一宮、千種でふれあい喫茶・サロン連絡会を開催し情報交換を行った。 (H30年度末取組み)
策定時と同じ又は減少	生活支援コーディネーターやコミュニティワーカーが集いの場や居場所づくりを提案し、活動の助言やレクリエーションの指導などを行い運営支援を行った。 (活動指標) 策定時:722回 目標:増加 H30末:703回
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
喫茶やサロンボランティアへのフォロー不足。高齢者等の見守りや安否確認の機会として役割を果たしていることなど、喫茶やサロン活動の意義等の共有がまだまだ図れていない。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の今後の方向性	喫茶やサロン活動の中に、ボランティア同士が高齢者等の見守りについて話し合う機会として「地域見守り会議」の開催を提案し実践にうつす。
拡充して継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

社会福祉協議会

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標2、基本施策(1) 自治会福祉連絡会の支援
活動指標	自治会福祉連絡会の開催数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の評価区分	(中間取組み) 小地域福祉活動説明会で取組みなどの説明を行い、地域の実情に応じた組織づくりを提案しながら福祉連絡会活動を支援した。
目標達成	(H30年度末取組み) 自治会福祉連絡会に活動助成金を交付し、活動の基盤を支えた。高齢者等の安否確認や困りごと等の情報交換の場として、「地域見守り会議」を実施した。 (活動指標) 策定時:283回 目標:増加 H30末:867回
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
「地域見守り会議」の開催を進めているが、話し合った内容が分からず、確認することが出来ない。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の今後の方向性	年間を通じて「地域見守り会議」の実践自治会を設定し進める(令和元年度…山崎12、一宮6、波賀4、千種4)。地域カルテや地域見守り会議記録簿を作成し、充実した話し合いの機会をつくる。最終的には全自治会での開催をめざす。
拡充して継続	

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標2、基本施策(1) 研修会の開催
活動指標	福祉委員研修の実施回数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の評価区分	(中間取組み) 認知症をテーマに各支部で研修会を開催した。
策定時と同じ又は減少	(H30年度末取組み) 地域見守り会議をテーマに各支部で研修会を開催した。代表福祉委員連絡会議(一宮・波賀)で豪雨災害の振り返りと防災の研修会を実施した。 (活動指標) 策定時:4回 目標:増加 H30末:4回
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
研修会への参加人数が全福祉委員の4割程度であり、理由として自治会の役と兼務の方も多くあり、福祉委員としての意識が薄い方も多くいる。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の今後の方向性	様々な立場の福祉委員が参加しやすい研修テーマの設定や環境(時間、場所等)を考え、福祉委員の役割や活動内容がしっかり分かりやすく伝わる研修の機会にする。
同内容で継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

社会福祉協議会

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標3、基本施策(3) 福祉サービス利用援助事業の推進
活動指標	福祉サービス利用援助事業相談件数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) ニーズに対して支援できる職員体制が整っておらず現状維持となっている。 (H30年度未取組み)
目標達成	生活支援員等の専門員の確保により、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理を行うなど利用者の生活を支援。福祉サービスの利用援助や成年後見制度に関することなどの相談を受け対応。 (活動指標) 策定時:597件 目標:増加 H30末:605件
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
様々な相談を受ける中で、ニーズに対しての受け皿が不足している。この事業での一定の財源がない。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の 今後の方向性	安定的な事業運営をするための財源確保。人材の確保。
同内容で継続	

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標4、基本施策(1) 災害ボランティア訓練の実施
活動指標	災害ボランティア訓練の実施回数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) 宍粟市総合防災訓練に参加し、災害ボランティアセンターの開設訓練(防災ボランティアセンターの紹介、災害救援ボランティアの受入れ等)を実施した。 (H30年度未取組み)
策定時と同じ又は 減少	宍粟市総合防災訓練に、本会職員と宍粟市災害ボランティアネットワークのメンバーで参加し、災害ボランティアセンター開設訓練を実施。 (活動指標) 策定時:1回 目標:増加 H30末:1回
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
市の総合防災訓練に毎年参加しており、行政や災害ボランティアネットワークとの連携の機会としては評価できるが、社協組織内全体の訓練の機会に至っていない。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の 今後の方向性	社協組織内で訓練できる体制をつくること。また、他団体と連携した訓練をするためのネットワークづくり。
同内容で継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

シルバー人材センター

活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標2、基本施策(2) シルバー人材センターの事業拡大
活動指標	シルバー人材センター登録者数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) 事業拡大に向け、普及啓発に努めた。 (H30年度末取組み)
策定時と同じ又は 減少	事業拡大に向け、チラシの新聞折込や市広報誌等、回数を増した普及啓発に努めた。 (活動指標) 策定時:498人 目標:600人 H30末:428人
II. 課題（めざす姿と現状の差）、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
再雇用制度等もあり、65歳前後（特に60代前半層）の方の入会が進まない。また、会員の高齢化の進行により退会される方が増え会員数が伸びない。	
III. 今後の個別施策の展開（課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか）	
関係機関の 今後の方向性	事業拡大に向けて、これまでの普及啓発を継続するとともに、会員募集についても対象を58歳 くらいまで引き下げるなどの対応を検討する。
同内容で継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

企画総務部 秘書広報課

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標3、基本施策(1) 情報提供の強化
活動指標	しーたん通信の普及率
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) 広報しそつ、ホームページ、しーたん通信、しそつチャンネルにより、公的な情報を市内全域に発信した。
策定時より増加	(H30年度末取組み) 広報しそつ、ホームページ、しーたん通信、しそつチャンネル、Facebookにより、公的な情報を市内全域に発信した。 (活動指標) 策定時:83% 目標:100% H30末:85%
II. 課題（めざす姿と現状の差）、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
しーたん通信の各家庭の設置率を、目標値100%としていた。 全ての家庭の理解を得ることは難しく、微増に留まっている。 特にテレビ放送がアンテナで受信できる地域では、光ファイバーを引き込む必要がないため、設置率が低い。	
III. 今後の個別施策の展開（課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか）	
関係機関の 今後の方向性	災害時等のお知らせを考えると、目標は100%に設定することになる。 今後も普及啓発に努める。
同内容で継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

まちづくり推進部  
市民協働課

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標4、基本施策(3) 公共交通の再編
活動指標	公共交通（路線バス）の利用者数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) 交通空白地の解消と交通弱者の利便性の向上を目的として、H27年11月より29路線、市内一律運賃に再編し、運行開始した。
目標達成	(H30年度末取組み) 利用者の利便性の向上、利用者の増加をめざし、地域からの課題を吸い上げ、地域と協議を行う中で、路線の再編等を行った。 (活動指標) 策定時:177,246人 目標:200,000人 H30末:276,838人
II. 課題（めざす姿と現状の差）、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車に依存するライフスタイルが強い当市では、バス利用に踏み切れない市民が多く、啓発を引き続き行う必要がある。</li> <li>・週1、2日運行の小型バス路線のなかには、利用が大変少ない路線がある。市民の意見では集落内をもっと細かく運行して欲しい、毎日運行して欲しいという声が多いが、バスや運転手といった物理的な課題、安全性の確保の点から限界がある。また、車両の老朽化、人件費・燃料費等の高騰により、今後の財政的負担が増加していく懸念がある。</li> <li>・観光客の利便性の向上を図るには土日の運行を充実する必要があるが、慢性的な運転手不足により現実的に難しい。</li> </ul>	
III. 今後の個別施策の展開（課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか）	
関係機関の 今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定額片道200円という利便性、公共交通の環境面での有効性等をPRし、地域で啓発活動を行う。バスに慣れてもらうため、1日乗車券を自治会に配布し体験乗車を推進する。交通事業者と連携し幼保小で祖父母を巻き込んだMM（モビリティマネジメント）を推進する。</li> <li>・限られた資源（車両・運転手）のなかで全てのニーズを満たすことは難しく、利用が少ない路線については、路線バスに代わる病院や買い物といった生活を支えるための仕組みを構築していく。</li> <li>・運行事業者と連携し、三ノ宮行高速バスの充実を図るとともに、乗務員の確保に取り組む。西播磨等の圏域で、魅力的な特典付きの乗り放題パスポートの発行を推進する。</li> </ul>
同内容で継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

まちづくり推進部  
消防防災課

活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標4、基本施策(1) 福祉避難所の確保
活動指標	福祉避難所の協定数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) H27年度に8団体12施設、H28年度に1団体2施設と「災害時における福祉避難所の開設等に関する協定」を締結した。※1団体1施設は廃業 (H30年度未取組み)
目標達成	H30年度に2団体2施設と「災害時における福祉避難所の開設等に関する協定」を締結した。 (活動指標) 策定時:一箇所 目標:8箇所 H30末:15箇所
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
地域によって福祉避難所協定数が異なるため、少ない地域の対応について検討する必要がある。 福祉施設の施設数、収容者数にも限りがあるため、今後の福祉避難所の確保について検討する必要がある。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の 今後の方向性	福祉部局と連携して、福祉避難所として受け入れ可能な施設を調査し、協定締結を働きかける。
同内容で継続	



## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

健康福祉部 社会福祉課

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標3、基本施策(3) 生活困窮者自立支援法による支援
活動指標	生活困窮者自立支援法による相談・支援件数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) H27年度から相談支援員、就労支援員を配置し、自立相談支援事業(必須)、住宅確保給付金(必須)、一時生活支援事業(任意)を実施。H28年度から就労準備支援事業(任意)を開始した。 (H30年度末取組み)
目標達成	総合的な仕事の相談窓口を開設し、就労相談から定着までの支援体制についてワンストップ化を実現した。利用者が増加したことで支援を必要とする方の掘り起こしを行うことができた。 (活動指標) 策定時:一件 目標:40件 H30末:87件
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
就労準備支援や就労支援を進めていく中で、家計管理に課題がある生活困窮の方もおられ、生活支援や就労支援だけでは困窮状態から脱却することが難しいケースもある。(H31年4月より家計改善支援事業(任意)を実施。)	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の 今後の方向性	引き続き、自立相談支援や就労準備支援、就労支援、家計改善支援を実施することで、生活困窮、被保護者への切れ目ない支援を行う。
同内容で継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

健康福祉部 介護福祉課

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標1、基本施策(1) 認知症サポーターの養成
活動指標	認知症サポーター登録者数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の評価区分	(中間取組み) 警察署、金融機関等、様々な分野から講座開設の意向があり養成講座を開催。受講者のうち希望者を対象としたステップアップ講座を開催し、地域でのリーダー的人材を養成。
目標達成	(H30年度末取組み) 引き続き、養成講座、ステップアップ講座を開催。 (活動指標) 策定時:一人 目標:500人 H30末:527人
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
地域や企業の養成講座の開催回数が伸びていない。北部域での開催が少ない。地域に対して講座開催の周知が必要である。小中高校では市内すべての学校で開催には至っていないが年々開催する学校数は増えている。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の今後の方向性	認知症の方が増える中、認知症を理解し認知症本人や家族の応援団を増やすことで、認知症の方が住み慣れた地域で安心して生活できるように、引き続き認知症サポーター養成講座を開催する。
同内容で継続	認知症サポーター養成講座の啓発活動としては、山崎・一宮・波賀・千種の4ヶ所で開催される、小地域福祉活動説明会において認知症サポーター養成の主旨を説明し、希望される自治会に対し子供から大人まで幅広い年齢層に対し認知症サポーター養成講座を開催する。また、関係機関を対象とした認知症サポーター養成講座を開催する。認知症サポーター養成講座受講者のうち希望者に対して、ステップアップ講座を引き続き開催する。

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標1、基本施策(1) 市民後見人候補者の養成
活動指標	市民後見人候補者数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の評価区分	(中間取組み) H28年5月に西播磨4市3町が共同して、西播磨成年後見支援センターを設立し制度の啓発等を行った。同センターと連携し、市民後見人養成講座を開催した。
目標達成	(H30年度末取組み) 宍粟市で市民後見人候補者養成講座を開催した。西播磨成年後見支援センターと連携し、継続して普及啓発を行った。 (活動指標) 策定時:1人 目標:4人 H30末:4人
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
平成30年度末には、目標値である4人の養成はできたが、高齢者が安心して暮らし続けることができるように、権利擁護に関する制度や各種事業について理解を深まっていない。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の今後の方向性	引き続き、西播磨成年後見支援センターと連携し、市民後見人候補者養成講座を開催していく。
同内容で継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

健康福祉部 介護福祉課

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標2、基本施策(3) 生活支援コーディネーターの配置
活動指標	生活支援コーディネーターの配置
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) 地域包括支援センターに1名、第2層域の協議の場に2名を配置し、地域の支え合い活動づくりに取り組んだ。
策定時より増加	(H30年度末取組み) 引き続き、地域包括支援センターに1名、第2層域の協議の場に2名を配置し、地域の支え合い活動づくりに取り組んだ。 (活動指標) 策定時:一人 目標:5人 H30末:3人
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
住民主体の支え合いの地域づくりは数値で測られるものではなく、長い年月をかけていくものであるため、今後も既存の団体や組織の会合に参加し、協議の中から地域課題を見つけ、支え合いの地域づくりの必要性などの啓発と合わせて、気づき共有の場になるよう関りを継続する。 そして自治会の福祉連絡会活動の活性化のため、見守り活動の重要性と情報共有の場(地域見守り会議)の機能充実を図る。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の 今後の方向性	現在、社会福祉協議会が中心で展開している小地域福祉活動の中で、見守り活動の重要性と情報共有の場(地域見守り会議)の機能充実を図り、声かけや見守り活動、生活の困りごとへの支援など地域の支え合い活動づくりに取り組む。
同内容で継続	また生活支援の担い手養成講座を開催し、自治会単位での地域組織やボランティアグループを支援の担い手とする仕組みづくりを推進する。

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標3、基本施策(2) 成年後見支援センターの設置
活動指標	成年後見支援センターの設置
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) H28年5月に西播磨4市3町が共同して、西播磨成年後見支援センターを設立し制度の啓発等を行った。同センターと連携し、市民後見人養成講座を開催した。
目標達成	(H30年度末取組み) 西播磨成年後見支援センターと連携し、制度利用などの普及啓発を行った。 (活動指標) 策定時:1設置 目標:1設置 H30末:1設置
II. 課題(めざす姿と現状の差)、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
西播磨成年後見支援センターの設置により、成年後見制度の普及啓発や市民後見人養成講座を委託で実施することで適切な制度の利用促進を図ってきたが、センターと各市町での役割分担や市民後見人の登録者への選任までの活動への支援については検討が必要である。	
III. 今後の個別施策の展開(課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか)	
関係機関の 今後の方向性	西播磨成年後見支援センター担当者会議(4市3町)で各市町と意見交換を行い、協議内容を各市町内部で共有する。
同内容で継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

健康福祉部 介護福祉課

活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標4、基本施策(1) 安心見守り（緊急通報システム）の周知
活動指標	安心見守りコールの新規設置数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) ホームページ等による周知のほか、チラシを作成し民生委員や介護支援専門員への周知を行った。高齢者実態把握調査員による高齢者訪問の際、事業利用が必要な方へ利用案内を行った。(H30年度末取組み)
策定時と同じ又は 減少	市の広報媒体で制度を周知した。高齢者実態把握調査員による高齢者訪問の際に事業利用が必要な方へ利用案内を行った。H30年度末時点での設置累計220台。 (活動指標) 策定時:23台 目標:30台 H30末:3台
II. 課題（めざす姿と現状の差）、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
安心見守りコール事業を実施することで、独居高齢者等の地域における自立した生活の継続を支援することを目的としている。事業の対象者を市内に居住する高齢者でそのうち本人の状態等を見ながら事業利用の判定基準を設けたことで、新規利用者が少ない。また、安心見守りコール事業を関係機関に周知しながら必要な方が利用できているか確認が必要である。	
III. 今後の個別施策の展開（課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか）	
関係機関の 今後の方向性	民生委員や高齢者実態把握員、介護支援専門員等を通じ、安心見守りコール事業について説明し、必要な方が利用できるように促していく。
同内容で継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

健康福祉部 障害福祉課

### 活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標4、基本施策(3) 移動支援事業（ガイドヘルプ）
活動指標	ガイドヘルプ利用者数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) サービス利用計画に基づき、支援の必要な方へ利用決定を行った。 (H30年度末取組み)
策定時と同じ又は 減少	サービス利用計画に基づき、支援の必要な方へ利用決定を行った。 (活動指標) 策定時:9人 目標:18人 H30末:8人
II. 課題（めざす姿と現状の差）、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
申請のあった方への支援は出来たと考えるが、潜在的な方の掘り起こしまでは出来なかった。	
III. 今後の個別施策の展開（課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか）	
関係機関の 今後の方向性	外出時にヘルパーの派遣が必要な方が、必要な時にこの制度の利用ができる環境を確保することが重要と考える。そのような環境を確保できるように引き続き取り組むとともに、潜在的な方の掘り起こしのため、制度の周知に取り組む。
同内容で継続	

## 第2期地域福祉計画施策検証シート

関係機関

教育部 こども未来課

活動指標に対する評価等

主要な施策	基本目標4、基本施策(2) 放課後児童健全育成事業（学童保育所）
活動指標	学童保育の利用児童数
I. これまでの具体的な取組み内容、目標の達成度等	
関係機関の 評価区分	(中間取組み) 就労等により保護者が昼間家庭にいない小学生を対象に、市内10小学校と1私立施設で学童保育所を開設。
策定時より増加	(H30年度末取組み) 就労等により保護者が昼間家庭にいない小学生を対象に、市内10小学校と1私立施設で学童保育所を開設。 (活動指標) 策定時:263人 目標:330人 H30末:297人
II. 課題（めざす姿と現状の差）、目標を達成できていない・課題を克服できない理由	
保護者の就労に伴い学童保育のニーズが高まる中、学童保育の支援員不足が深刻な問題となっている。このため、各学童施設に十分な支援員の配置ができず、土曜日や長期休暇の長時間保育が困難であり合同保育等の措置を取っている。	
III. 今後の個別施策の展開（課題解決に向け、どのようなことに取り組んでいくか）	
関係機関の 今後の方向性	学童保育支援員の慢性的な人員不足と高齢化が進む中、安定した受入態勢を整えるため、今後も継続して支援員の募集と人材育成に取り組みたい。
同内容で継続	